

第 2 回東浦町総合計画審議会 会議録

会 議 名	第 2 回東浦町総合計画審議会	
開 催 日 時	平成 30 年 5 月 23 日（水）午後 1 時 30 分から午後 4 時 20 分まで	
開 催 場 所	勤労福祉会館 会議室 1	
出 席 者	委員	<p>会 長 千頭 聡</p> <p>職務代理 久米 弘</p> <p>委 員</p> <p>山下 享司、米村 佳代子、久米 賢治、竹田 正巳、加藤 龍雄、神谷 英一、杉浦 義治、鈴木 鑑一、田島 由美子、都筑 一男、外山 淳恵、成田 賢治、新美 努、二宮 立美、間瀬 宗則、水野 博隆、祖山 薫、戸張 里美、野村 雅廣、米島 竜雄</p>
	事務局	<p>町長、教育長、企画政策部長、総務部長、健康福祉部長、生活経済部長、建設部長、会計管理者、建設部次長、建設部技監、企画政策課長、生涯学習課長、企画政策課主幹、企画政策課課長補佐兼企画政策係長、企画政策課主査、企画政策課主事 2 名、第 6 次東浦町総合計画策定支援業務受託業者 2 名</p>
議 題 (公開又は非公開の別)	<p>1 あいさつ</p> <p>2 議事</p> <p>（1）第 5 次東浦町総合計画の評価について</p> <p>（2）基本構想（案）について</p> <p>（3）総合計画の構成（案）について</p> <p>3 その他</p>	
非公開の理由 (会議を非公開とした場合)	—	

傍聴者の数	3名
審議内容 (概要)	議題の審議内容は、別紙のとおり
備考	

【議事要約】

開会

事務局	(開会、資料の確認)
-----	------------

1. 町長あいさつ

町長	前はそれぞれの立場から意見などいただいた。本日の審議会もできる限り質問にはお答えしていきたい。基本構想については根本的な変更は無いが、修正をしたので再度意見などいただきたい。時間が限られている中、内容が濃い議論ができればと思う。
----	--

2. 議事

(1) 第5次東浦町総合計画の評価について

委員	議事に入る前に、議事録では名称が会長と委員長と混在しているがどちらが正しいのか。
会長	会長が正しい標記になる。
委員	第5次の計画を前倒しして策定する理由について明記されていない。平成31、32年度は重複するのか。
事務局	重複ではなく、前倒ししての策定である。第5次は、平成32年度までの10年間の計画であり、計画期間終了まで人口が増加していくことを想定して策定した。しかし、平成27年度国政調査において、初めて人口減少となった。そこで今後もこれまでの方向性でいいのか、という議論の中で、人口動向に対応したまちづくりを進めていくべきであるという判断から前倒しして策定することとした。
委員	前倒しする理由については賛成である。しかし、平成31、32年度については第5次の条例が続いている。そのあたりのスケジュールなど基本的な認識をまず共有するべきではないか。
事務局	平成30年12月議会にて、第6次総合計画を議案として提出し、31年度から第6次に基づいて実施していく。
委員	議会では報告があったのか。
委員	個人的には平成30年12月議会に出されるということは予想していたが、正式には示されていない。
委員	まず基本的な認識の共有のためにも全員協議会に諮るべきである。
会長	全国ほぼすべての自治体が総合計画を策定している。自治体の状況が変わった場合は前倒しして策定することは他の自治体でもある。
委員	東浦町はこれまで負の遺産を抱えていた。早く第5次が終わって欲しいと思っていた。第6次策定にあたっては初めにスケジュールなどをお示していただくことが必要である。
会長	前回でも口頭では説明していた。資料としてあっても良かったかと

	は思う。
事務局	(資料1の説明)
会長	意見や質問などはあるか。
委員	第5次の評価から総括的な判断で第6次の策定に踏み切ったと思うが、現在の資料は各論である。総論の総括的な評価はないのか。
事務局	第5次は今年度末まで動いている。現在年度の途中であるため、最終的な総括としては30年度が終わった段階で行う。
会長	現状としては参考資料3に事務事業の評価がされている。定性的な評価はされていない。
委員	口頭で第6次の前倒しした理由の説明はできているのにも関わらず、なぜその内容が文章として出されないのか。
会長	冒頭で第5次を前倒しすることについては説明されていた。
委員	第5次の期間は町のイメージが下がっていた時代であった。それらを踏まえて総括として文書として出せないのか。
委員	第5次の評価について出された意見は同感である。今回の資料は平成28年度実績の進捗の一覧表に過ぎず、全体の評価にはなっていない。前回、PDCAをまわすという観点から、実績を踏まえた評価をした上で、反省点や課題を共有し、新たな長期的な視点を加味して次の計画立案を進めるべきとお伝えした。この資料で現計画の評価として済ませるようにはいけない。しっかり時間をとって評価をし、町民に示す義務があると思う。今年生まれた子どもが成人する頃の社会に向けた東浦町の羅針盤として、胸を張れる総合計画として欲しい。
委員	評価の数字や評価項目自体が変わっているものがある。本文の中では「ジュニアリーダー主体行事の件数」、「ジュニアリーダーの人数」などの表現や数字が変わっている。 整合性がとれるようにしないと評価できないのではないのか。
会長	事務局でチェックをする。
委員	人口推移を想定し、まちづくりを行った結果を評価したというのであれば、それで良いと思う。しかし、人口の推移が事務局の想定していたものと違い、人口が伸びていかないから見直すということであれば、人口増をあくまでも目標として掲げていたのか。
事務局	人口が伸びないから前倒しして第6次を策定するというわけではない。人口が増えていく中で行う施策と人口が減っていく中で行う施策は違う。想定した速度よりも速く高齢者が増えていく中で、今後も同じまちづくりを進めていくことはいかがなものかという議論のもと、前倒しして策定することとした。
委員	総合的な評価として数値化されていない。定性的な評価もされていない。どのような指標で総合評価をするのか。

会長	整理をすると、第5次を定量的にも評価したほうが良いということで、全体の到達点をみて定性的なまとめがあったほうが良いということであり、資料1の冒頭に総括があると良い。なぜ目標まで達成できなかったのかなどのコメントがあっても良いと思う。第6次の冒頭にも入れても良いが、そこも含めて事務局で検討する。
委員	第5次総合計画の14ページには、「東海地方では人口減となる中、東浦町では自然増は望めないが、社会増が望めるため人口を53,000人と設定する」と記載がある。10ページには、「本計画は、市制施行後、第1次（仮称）東浦市総合計画とします」と断定している。このままでは達成できない。まず事務局としてはその部分を認識して、第6次総合計画では、総括として冒頭に掲げるべきである。
委員	第6次の中に総括を入れることは重要。10年前から人口が減ることは分かっていた。頭の中にあっただけ。すべての産業は人口をベースに動いている。第6次は第5次よりも早いスピードで問題が出てくる。自ら目標を設定しているわけで、パーセントの設定に対し、達成できなかったことが悪いのではなく、目標の設定の仕方が悪いのではないか。
委員	第5次では5つの部門で施策を進めてきた結果、人口の推移が予想と異なって伸びてこなかった。今回は単純な見直しではないことを認識したほうが良い。
事務局	評価については再度提出する。事業や施策の評価などが見えるような形で提示する。
委員	問題は多くあるが、まちづくりにおいては、「自助」「公助」の考え方の中で、住民がどうしていくかが重要である。人口が減る中でも東浦町は一般的な市町とは違う部分があるということを確認していただきたい。平成28年では計画に対して中間評価を行っている。議論されたものに対して庁内で連携して、精査していただきたい。第6次では様々な問題もあるが、行政だけではなく、今後は地域でどうしていくかを考えるべき。第5次での目標に対し、到達したかどうか重要ではあるが、今後は時代が違う。
委員	指標について、当初のものと見直しがされているのではないか。指標の算出方法の資料が欲しい。
事務局	第5次の策定から、中間評価として平成28年3月に行われており、指標の見直しが行われている。中間評価の評価書も次回配布する。

(2) 基本構想（案）について

事務局	(資料2-1、2-2の説明)
会長	意見や質問などはあるか。
委員	今回の基本構想は人口が減っていく想定となっているが、果たして

	<p>計画として良いのだろうか。問題点としては人口減少という中で、既に整備されているインフラ、施設を維持できるのかが重要である。49,800 人のキャパシティを維持できるまちづくりを進めていくべきなのではないか。</p>
委員	<p>地域によって課題にばらつきがある。今後 20 年の人口が減っていくということだが、緒川新田地区・卯ノ里コミュニティについては 15 年前から減っていた。15 年前の 8,800 名をピークに平成 27 年に 8,100 名、平成 29 年 7,700 名に減っている。子どもの人数の減少が著しい。卯ノ里小学校は 43 名、西部中学校は 53 名である。これは、まちの将来を示しているように感じる。</p> <p>若い人が来るような子育て教育、公共交通の充実など、20 年後を見据えた計画にするべきである。また、基本計画の中で、12 ページのコンパクトなまちづくりの中で、鉄道駅と表記すると「JR」を想定する。名鉄の巽ヶ丘駅は町民も多く利用している。「名鉄」も含まれていることを意識させるようにしてほしい。</p> <p>緒川新田地区は知多市、東海市、阿久比町と隣接する。10 ページに近隣市町との連携した取組みについて具体的な内容を記載してほしい。</p>
委員	<p>12 ページでは構造物について記載いない。具体的なことを書いてはどうか。20 年後、役場庁舎はどうするのか。学校や公民館の建替えなど、どのように考えているのか。</p>
委員	<p>第 5 次では施策大綱があり、それに基づき基本計画を位置づけていたが、今回は無くなっている。その理由をお聞きしたい。また、行財政運営が入っていないのではないか。</p>
事務局	<p>将来人口については、目標とするのではなく、施策を行うための見通しとして扱う。緒川新田地区など、地区によるばらつきについては土地利用構想への反映を検討する。他市町との連携については、基本計画への記載を検討する。</p> <p>施策大綱が無くなっている点については、基本計画の中に施策の体系図と施策の方向を記載している。第 5 次の基本構想と基本計画は 10 年間であったが、基本構想は 20 年、基本計画は 5 年間で見直すことから、長期の計画期間の中で変化に対応するため基本構想には記載していない。</p> <p>行財政運営については、資料 3-2 にもあるように第 6 次にも挙げている。</p>
委員	<p>近隣市町をみると、人口を維持している市町がある中で、どこが東浦町と違うのか。あくまで人口の維持が大前提ではないか。それが第 6 次の一番の課題である。12 ページの土地利用について矛盾点があるのではないか。人口は減っていく中でコンパクトなまちづくりについ</p>

	<p>ては具体的に書きすぎなのではないか。鉄道駅やバス停に集約していくと書かれているが、コンパクトなまちづくり計画では現状については評価されている。コンパクトなまちを維持していくことが課題として挙げられている中で、さらにどこを集約するのか。投資する必要があるのか。宅地開発などをしていくと記載もあるが現段階でキャパシティは足りているのではないのか。これは再開発を意味しているのではないか。</p> <p>これまで、人口が減ってないということは逆に、今の景観について問題はあるのではないか。「守り」「残す」という表現が住民のためを思うと足枷となっているのではないか。景観を守るということは重要だが基本構想にしては具体的に書き過ぎているのではないか。</p>
委員	<p>人口減少の下振れリスクについても広い視野で考えるべきである。前回、環境、地球温暖化対策に関して世界的な課題であり大きな変化が起きていると発言した。大きな流れの中で、特にヨーロッパ、中国にて化石燃料を使わない自動車の電動化促進が規制強化として打ち出されたということは自動車産業が集積する愛知県、東浦町でも影響を受けることが予想される。自動車は多くの部品で構成されるが、エンジンがモーターに変わることによって部品件数が半分以下になる。自動車産業の生産構造そのものが大きく変わっていき、企業数も減ることで、二次的影響で刈谷市などに隣接する東浦町の人口も減少が懸念される。こういった広い視野での東浦町の人口減少リスクを捕らえて今後のまちづくりを総合計画の中で記載していくべきではないか。</p>
委員	<p>緒川地区については建設ラッシュである。空き地も住宅に変わっている。地域差も考えながら、政策を考え、計画内で記載していくべきである。</p>
委員	<p>第5次の策定時は、東浦町は宅地造成を進めていく最中であったため、周辺市町は人口が減りつつある中、右肩上がりの予想のもと53,000人と推計した。その時に移り住まれた方が60代に近づいている。今度はこれまで増えた人口の分、一気に高齢化が進むため、高齢化対策は真剣に考えるべきである。</p> <p>町民は日中町外へ働きに出ており、日中は静かなまちである。そのままでは良くなるわけがない。昼夜の人口の差が大きくありすぎる。その差をどのように縮めていくのかが重要である。</p>
委員	<p>会議録と意見対応について、気になる点がある。他自治体と差別化できるような考え方をまちづくりに反映させていくことが重要であると感じている。前回の審議会では意見のあった、ソサエティ5.0、SDGsなどのキーワードが記録に残っていない。意見の3ページ「(7)計画全体の方向性について」の③については同感である。人口問題は避けられない中で、課題解決と未来を作っていくという面で力強い構想</p>

	<p>にすべきである。SDGsは2030年までの新たな世界を創造するための国際目標となっている。ソサエティ5.0ともつながっている。日本政府、経団連などでも意識して施策の中に入れていくというもので、少なくとも10年これをベースにした施策がこれから進められていく。今後確実に関連する内容であるため、これらを意識しながら課題解決、未来創造をするまちづくりを進めて欲しい。</p>
委員	<p>資料2-2の6ページを見ると農家、商店数など減っており、税金が入ってこなくなっている。以前は、人口が増えると行政の負担が多くなるため人口が増えることは好ましくないとされていた。その後、皆さんの収入が上がり、税を担う力が上がってきた。それから、人口を増やさなくてはいけないという考えが定着し、東浦町はずっと人口増であった。最近では人口が横ばいとなってしまった。参考資料2では税について記載がある。かつて財政力指数が1.04程度の時期があったが、人口が伸びるにあたって財政力指数も上がっていき、財政運営も良好となった。行政は守り抜かなければならない。どうやって守り抜くかが課題である。</p>
会長	<p>基本構想の内容の議論ではなく、東浦町の今後をどうするのが議論が中心となっていた。5年、10年間の動向を踏まえた現状の分析、評価があった中で基本構想の議論ができれば良かった。</p>
事務局	<p>人口については、はっきりと何万人を目指すということを記載するつもりはない。5万人だから幸せで4万人だと不幸せというわけではない。人口減少に加え後期高齢者が増えていくことは、皆さんの生活の中でも大きな影響がある。少しでも緩和し、地域、事業者との協力により新たなサービスの提供者として参画していただくことで従来通りのサービスを維持していき、幸せを実感できるまちを目指していきたい。人口自体は目標ではないことから、人口見通しの表記は変えない方向で考えたい。</p> <p>コンパクトなまちづくりについては書きすぎている部分もある。現状、全国的な比較をするとコンパクトなまちとなっているが、生活に必要なものはすべて集めるということで、このように記載したものである。表現については今後検討したい。</p> <p>公共施設のあり方についても、人口減少が進む中で、全てを維持していくのは難しい。再整備、再配置が必要となるが、適正なサービスが維持できるよう留意しながら再整備・再配置をしていく。</p> <p>産業構造の転換が進む中での人口減少の下振れリスクについては、複数のパターンで人口推計をしているが、その中でも確度が高かった中位の推計を使用している。</p>
会長	<p>民間企業の考え方でいくと、お金の裏付けがないものは計画ではないという考え方である。しかし、行政は発想が違い、まず実施すべき</p>

	<p>ことを実施していく中でどのように財政面を賄うか、という考え方であるため、感覚が異なる部分がある。</p> <p>今回、財政の見通しは計画内に記載するのか。</p>
事務局	<p>基本構想、基本計画どちらにも財政見通しは記載しない。これまで予測しがたい出来事が起きた際、その影響は単年度で完結できないレベルの影響であり、そこまでを予測して財政の見通しを立てられないことから、記載しないこととしている。</p>
委員	<p>若い人が増えるような施策に取り組んでいくべきである。そのためにも基本構想にて、若い世代が住みたくなるような施策が入っていると分かるようにすべきであり、子育てに力を入れているまちであることを基本構想で記載すべきである。</p>
会長	<p>委員の意見を聞くと、東浦町の力を入れる方向が見えにくいというような印象である。</p>
委員	<p>基本構想に夢がない。読んでいてもマイナスのイメージがある。人口は維持ではなく増加していく方針にした方が良いのではないか。</p>
委員	<p>何かに欠けている印象である。希望出生率 1.8 を目指しているのにもかかわらず、子育てに力を入れている表現が無い。そこが分かるような表現を入れて欲しい。</p>
委員	<p>若い人が入りたいと思うまちを目指すにあたって、東浦町の学校教育が素晴らしいということを 20 年間かけて作りあげていけば良い。建物を建て替えるわけではなく、中身について充実を図るべきである。</p>
委員	<p>女性の活躍、高齢者の活躍についての表現を記載して欲しい。</p>
委員	<p>東浦町は発達障がい児に対する支援などとても良い子育て支援をしている。東浦町の良い面を伸ばすように計画書でも打ち出して欲しい。</p>
委員	<p>保守的で守りの表現が多いと感じる。「新しい」「チャレンジ」などの意味を持たせた前向きな表現をして欲しい。</p>
会長	<p>総論の基本構想と各論の基本計画はセットであるため、次回から基本計画の議論を 2 回ほど通し、そこまでの議論を踏まえて基本構想の修正すべき部分はどこか議論をもう一度する、という進め方にしたいと思うがいかがか。</p>
(一同)	<p>異議なし</p>

(3) 総合計画の構成(案)について

事務局	(資料 3-1、3-2、3-3 の説明)
会長	意見や質問などはあるか。

委員	資料 3-1 の説明では、第 4 章を無くすということであったが、部門別計画はどこに記載されるのか。
事務局	第 3 章と第 4 章を同じ基本計画であるという旨を分かりやすくするため「第 3 章基本計画（総論）」、「第 4 章基本計画（各論）」と名称を変更し、部門別計画は第 4 章に記載する。
委員	土地利用計画の計画期間は 20 年間を見据えてという説明であったが、基本計画は 5 年間ではないのか。
事務局	基本計画での記載であるため 5 年である。今後 20 年間を見据えて計画は作るが、適宜見直しが必要な場合は 5 年で修正する。変更無ければ次期の基本計画へ引き継ぐ。
委員	どのような場でこの土地利用構想図は議論されてきたのか。
事務局	まず職員にて作成し、庁内の作業部会、策定部会、策定委員会の 3 段階にて議論をしたものである。今回基本計画で記載したものを来年度、都市計画マスタープランにて具体的な内容を詰めていく。
委員	3 ページの「単身世帯の増加」を「独居世帯の増加」の表現にしてはどうか。
事務局	事務局にて検討する。
委員	老老世帯という言葉も入れていただきたい。「老老世帯、独居世帯の増加」としていただきたい。
会長	第 3 章にあたる「基本計画（総論）」については今後特に変更せず、次回から各論の議論を進めるということで良いか。
(一同)	異議なし

3 その他

会長	次回以降の進め方について事務局から願います。
事務局	次回は全体で現行計画の評価について再度お示しした後、第 1 部会、第 2 部会に分かれて実施する。基本構想の議論については、基本計画の議論を踏まえた上で第 4 回審議会時に時間を設ける。

閉会

事務局	(閉会)
-----	------

以上